

## 出合った教材を自分に役立てよう

教科書は四年ごとに改訂され、教材の見直しが行われます。新しい教科書に初めて登場する教材があれば、ずっと教科書に載り続けている教材もあります。後者の一つに、1年の国語「ちよっと立ち止まって」という説明的文章があります。

この教材は、読む前から生徒たちに人気があります。なぜなら、題材が「だまし絵」ですから。二通りに見える絵が生徒たちの好奇心をくすぐります。

「あっ、どくろに見えた、見えた!」「どうやったら化粧台前の女性に見えるの?」本日の一年C組の授業でも、だまし絵で盛り上がっていました。この教材に対する生徒の反応は、いつの時代も同じです。

しかし、この教材が教科書に載り続けているのは、生徒たちに人気があるからだけではありません。だまし絵という題材を使いながら、読み手の生徒たちに大切なことを教えているからだとは考えています。

大切なことは三つ。一つは、何を中心にして見るかを変えること。二つ目は、これまでのイメージを意識して捨てること。三つ目は、見る距離を変えること。それぞれの見方が、一枚ずつのだまし絵を使って説明されています。

人間関係を築くときにも、この三つが大切になってきます。「この子はこういう子だ」と決めつけている時には、その子の他の面は見えていません。目立たない一面に中心を置いて、その子を見るとよいかもしれません。

取っつきにくいと決めつけている仲間にこそ、自分から思い切って話しかけてみるとよいでしょう。話してみたら、案外趣味が合うという印象に変わるかもしれません。

出身地区やクラス、部活動も違う仲間には、接点を見つけて、自分から近づいてみるとよいでしょう。小さな接点から、大きな友情が生まれるかもしれません。

勉強とは、先人が残してくれたものを、いかに自分のものとするかということではないでしょうか。先人の知恵や考えを吸収するだけではなく、それを自分なりにアレンジして自分に役立てることが大切だと私は思います。

(八月四日 記)



だまし絵で盛り上がる1C